



令和元年度 『腹の底から笑いあった家族エピソード』 大笑

【優秀賞】

勘違い

府中学園九年

佐々田 ひかる

私がまだ小さかった頃のお話です。母、姉、私はテレビでニュースを見ながら夕飯を食べていました。ニュースでは、どこかの動物園で人が『あやまって』高い所から落ちてしまい、軽傷を負った、ということが伝えられています。それを見た幼き日の私はあることを疑問に思い、母と姉に「なんで『あやまって』落ちたん？」と聞きました。ですが、母と姉はきよとんとした顔をして、何も答えません。そこで、もう一度こう聞いてみました。「なんで『ごめんさい』って言って落ちたん。」

少しの沈黙。そして、私の間違いを察した母と姉は笑い出しました。私は、『誤る』を『謝る』と勘違いしていたのです。当時の私のボキャブラリーに『誤る』は、まだ存在していなかったのです。そうとは知らず、今度はこちらがきよとんとしている、と、姉が間違いと『誤る』の意味を教えてくださいました。それで、

自分のとんちんかんな言動に気がついて、私も二人といっしょに笑いしました。

今でも、『誤る』というワードが聞こえると、このことを思い出し、す。振り返ってみれば、しょうもない出来事でしたが、まだこんなにも鮮明に覚えているということは、その時の私にとって、鮮烈な出来事だったのだろうなあと思います。

令和元年度 『少しのがまん』

川柳大賞

【市長賞】

しごといく

ははのせなかに

手をふった

国府小学校二年

安原 結乃絆

(自作の解説)

おかあさんがしごとにいくようになって、はじめての夏休み。さみしいけれど、がんばるおかあさんにしんぱいかけないようにえがおで手をふった。

(家族の一言)

さみしい思いをさせていたんだと気付かされました。ごめんねと抱きしめたくまりました。

府中明郷学園

第10回

みんなで進めル 「ミニユニティ・スクール」

(略してCS)

地域の中に学校を
学校の中に地域を



図書館長による4年生の授業「百科事典の使い方」



3年生の社会科の授業「消防署の仕事」

府中明郷学園では、「未来を創る力（他者と協力しながらよりよい社会を創ることができる力）」を育成するため、地元企業や地域の皆さんと協働して、地域協創カリキュラムを作成し、実践してきました。

また、多くのゲストティーチャーが子どもたちの学びに関わり、学校と地域が協働した教育を実践しています。今年度は、地域や保護者の協力を得て、図書室を「調べ学習に適した図書室」へとリニューアルしました。